

伊達は男の仙台刈り



町内会



平成26年11月3日、広瀬川宮沢緑地公園で、「ギネス世界に挑戦」と銘打った「仙台刈り」プロジェクトの大イベントが行われました。

この催しは、愛宕商業会主催、同会役員と理容店主八木均さんが実行委員長を務め、震災後の復興支援と町おこしで地域の活性化をはかることとするもの。当日は、事前に仙台刈りをした190人のモデルと190人のスタイリストが河川敷に集結し、300人余の世界記録には届かなかったものの、10分間の仕上げの競演に会場は沸きに沸きました。

髪型は、前髪を、伊達政宗の兜の三日月をイメージして七三に分け、後髪は、震災に打ち勝つという思いを込めてV字に刈り上げる「仙台刈り」。子どもにも大人にも似合う恰好のいいスタイルです。小学生からお年寄りまでのモデルを相手に見事な手さばきを見せたスタイリストたちは、次回への挑戦が目標と、早くも意気込んでいました。県外からの参加も多く、今後さらに広がりが期待できそうです。

サバイバルとしては、ミニライブやフリーマーケット、商売主催の「いちご」一會抽選会もありました。マーケットでは、商店街の名物屋台を始め区内からも多数の出店があり、冷えた体が温まるお店に列を作っていました。

あいにくの曇天下でしたが、お父さんはモデル、子どもたちは食べ歩きと、家族ぐるみで楽しむ姿に寒さを忘れた一日……。私自身もいちごを一バックゲットでき、ほっこりした気分が帰途につきました。

(司地記)



▲仙台刈りイベント会場

コミュニティづくりに

町内会始動!

若林西・荒井東復興公営住宅

昨年4月、若林区内では初めてとなる復興公営住宅への入居が、若林西と荒井東で開始され、新たなつながりができつつあります。

若林西復興公営住宅の町内会「若林西せせらぎの会」は10月に発足しました。以来、会長の春日井政秀さんは、3棟約150の世帯をまとめるのに一生懸命です。住民同士の交流を図るのが当面の課題とのこと、その点で、11月初めの第1回火災訓練は、入居者が一堂に会することができ、顔合わせのよい機会になったと、嬉しそうでした。その後も、集会所でボランティアによる健康マージャン教室が始まる等、会長さん念願の交流の場が徐々に広がりを見せています。



▲火災訓練(若林西復興公営住宅)

荒井東復興公営住宅は、今春に第2期の整備が終了すると、2棟合わせて約300の大所帯になります。様々な地域からの入居者や高齢者も多いことから、コミュニケーションづくりを特に大事にしたいと語るのは、町内会長の大橋公雄さん。顔が見え、気持ちが伝わり、楽しく生活できる町内会を目指す、元気に話してくださいました。間近に迫る地下鉄東西線の開通に伴って、病院、スーパー、スポーツ施設と、地域の利便性が高まっていく楽しみがあるとも、笑顔で語っていました。入居から約1年、双方共に、新たなコミュニティづくりが着実に始まっています。

(菅井・引地・志子田 記)



▲植樹祭(荒井東復興公営住宅)

編集後記

東日本大震災から4年になろうとしております。昨年も御嶽山の噴火などもあり、自然の恐ろしさをまざまざと見せられた年でした。震災から時が経つにつれて、世の中では、関心度が薄まってきているように言われますが、被災地での復興は進行しており、若林西、荒井東復興公営住宅にも入居が始まりました。私事で恐縮ですが、「はいらいん若林」編集に携わるのは本号が最後となります。ありがとうございました。皆様方には今後ともまちづくり活動への積極的な参加をお願い申し上げます。(まちづくり協議会事務局 長田 記)

会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝 又 久 雄
西 條 芳 郎
菅 井 てる み
引 地 よ し
志 子 田 喜 恵 子

若林区まちづくり協議会

事務局

若林区役所まちづくり推進課内
〒984-8601 若林区保寿院前丁3-1
TEL 282-1111

High Line Wakabayashi
はいらいん若林

みんなでここさ

いらいん!

若林区まちづくり協議会会報 2015.3.1 Vol.18

若林区探訪 その五

政宗の晩年の居所 若林城

古城二丁目にある宮城刑務所。そこにはかつて「六角大学」の名で親しまれた明治の獄舎があり、中央の六角塔は地域の象徴でした。今はその姿を知る人も少なくなりましたが、もともとこの場所は、仙台藩祖政宗が晩年の八年間を過ごした隠居所、若林城の城跡でした。江戸初期の城御殿が遺構としてそのまま残るのは全国でもあまり例がないとのこと、若林城跡は古城地区のシンボルとも言えるでしょう。

築城について諸説がありますが、城の規模の広さ、外郭の高い土塁、二重の堀割等からの「戦いを意識した政宗の、一つの城」説に心が惹かれます。また、城の周りに重臣の屋敷を設け、侍屋敷や商人町を若林町奉行所の管理下に配置する等、仙台下とは別の小城下町づくりを試みたとする「政宗の副都心構想」の見解にも興味を湧きます。いずれにしても、これだけの大事業が政宗の死去と遺言によって短期間で幕を閉じたことは、今の私たちにとっても大いに悔やまれるところですね。

現在、若林城の面影を残すものは、当時は五メートルもあつた土塁、堀割の一部、区内の寺に移建された城門が主ですが、

歴史の流れを今に伝える町名 古城

古城の四季

加えて、政宗が朝鮮から持ち帰って大切にしていたという臥龍梅の巨樹が所内にあって、今も美しい花を咲かせるそうです。



▶六角塔(昭和40年までありました)

治水の人柱

行人塚

河原町の商店街を東に進むと鉄道線路の踏切が見えてきます。この踏切は「行人塚踏切」と呼ばれ、この辺りの旧町名「行人塚」に因ると思われまます。踏切の少し手前の南側に古城神社があり、昔、その下には、昔、洪水から村人を救うために自ら人柱として生き埋めになった行人(山伏)を祀った塚があり、それが町名の起りとのこと。行人の振る鈴の音は二十一日間土中から聞こえ、大願成就後は水害が跡を絶たないことから、村人が行人の恩を忘れないように塚を築いて弔ったという伝説があります。

この地を散策すると、四季折々に色々な顔が見られます。春は、歴史を物語る堀割に淡い桜の花を見ることができ、夏は、木々が一層青さを増して、緑豊かな城町に若々しい小中学生の声が響きます。秋、枯葉のささやきの中、七五三の装いの童たちが近くの神社に向かう姿が暗れやかです。そして、冬のどんと祭のにぎわいへと、古城の季節は移り変わります。

地域には、一年中、大小の行事があり、近くは、九月に学区民大運動会、十月に初めて防災訓練が行われ、古城小学校の校庭は地域住民で埋めつくされました。また、コミュニティセンターでは、シニア向け健康体操教室が毎月曜日に開かれ、無理のない運動方法を学べることで好評です。集いの場が多く、とても和やかな地域です。

(参考文獻「仙台北地名考」「若林の散歩手帖」「仙台北地名考」)
菅井・志子田 記



▶古城神社

会報の愛称 「はいらいん若林」とは

仙台弁の「いらいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

わかばやし倶楽部 ふるさとまつりに参加

若林区まちづくり協議会人材育成事業で行っている「わかばやし倶楽部」が、10月19日に開催された若林区ふるさとまつりに参加しました。

晴天の下、七郷堀親水公園に陣取った倶楽部員は、ペットボトルを石畳の上に並べ、子どもたちにボールを蹴らせて倒す「キックボウリング」を、ゲームとして提供しました。大勢の子どもたちが列をなし、子どもたちの蹴ったボールが一度にいくつかのペットボトルを倒すたびに、歓声が上がりました。中には元気の良いキックで力が余り、用水堀まで飛んでしまうボールもあり、倶楽部員は回収に汗を流しておりました。

「わかばやし倶楽部」の皆さん、まつりを盛り上げていただきありがとうございました。



平成26年度 若林区民 ふるさとまつり ありがとう!!

若林区民ふるさとまつりへのご来場、ありがとうございました。おまつりの実施までに、実行委員会としてより充実を図るため、多くの会議を行ってまいりました。区民のおまつりとして、多くの来場と多くの参加をいただけることが何よりと思っておりましたので、天候にもめぐまれ、大きな事故もなく、多くの方に喜んでいただける形で終えたことを大変うれしく思っております。

ご来場、ご協力いただきました多くの方に、実行委員会を代表し、紙面をおかりして、御礼申し上げます。

この流れを絶やすことなく、より充実していければと考えておりますので、今後も区民まつりへのご参加とご協力をお願い申し上げます。

若林区民ふるさとまつり実行委員会
実行委員長 平間敏春

今年は昨年と違って晴天の中での開催に安堵し、「イベントは天気の良い悪いで決まる」は過言でないと感じました。

お客様の数が多いことも一つの答えと感じますが、何よりも、おまつりを楽しんで頂きたいと、いろいろな企画に取組んだ結果と思います。

今年も特別企画班の担当をさせていただきましたが、会議での意見をもとに、各企画を精査し、各部のレベルアップを図りました。また、新しい企画「学校じまん」については、来場者にも好評で、来年度は参加校を増やすことが成功の秘訣だと思います。宮城野区との共同事業「復興ふうせん」も、心に残り、今後の展開が期待出来ると感じました。

特別企画班が多岐にわたって活動できたのも、関係されました皆さまの協力と実行力のお陰であり、それが成功の大きな要因の一つだと思います。企画に参加されました皆さまに、改めて感謝申し上げます。

若林区民ふるさとまつり実行委員会
副実行委員長 佐藤康浩

晴天に恵まれ、多くの人に
ぎわいました。



ザリガニ
たくさん釣れるかな?



今回、広報班は攻めの広報を目指しました。

より多くの人の目に触れる手段として、フェイスブックへの投稿、ミヤギテレビ「OH! ハンデス」のイベント告知に出演、ポスターの新たな配布先として協賛金協力者まで範囲を広げ、新たな訴求場所を生み出しました。さらに、広報班で考案した「じまんすっぺわかばやしいいところ」として若林JINのテーマで、学校自慢という新コーナーや、自慢したい若林区、我ら若林人という文化にスポットを当てる事が出来たのは大きな成果でした。

区民一人一人が、若林区を盛り上げていこうという意味で、「じまんすっぺわかばやし」は、過去と未来や、色々な物をつなぐ言葉として、生きていく様な気がしてなりません。

若林区民ふるさとまつり実行委員会
副実行委員長 菅原正和

若林区民ふるさとまつりは、区民のボランティアが中心になり企画・運営されています。昨年からは、これからは、これからを担う若い人たちにも積極的に参加を呼びかけ、一緒におまつりを作り始めています。

ポスターでは区内の中学校の生徒さんたちがイラストを制作、当日はスタンプラリーコーナーの受付を担当、復興応援スーブの企画には調理師専門学校のみなさんが参加など、若い仲間たちがおまつりの一翼を担いました。

震災後からは、復興に向けて歩みはじめた区内の状況や人々を写真で紹介する展示など、復興応援の企画も続けて行っています。

暮らす地域のことを知り、親しみ、みんなで楽しむ。そんなおまつりだと思っています。

若林区民ふるさとまつり実行委員会
副実行委員長 庄子 陽



若林区の
「いいところ」を
写真で展示

日辺地区で町内会を中心に 地区のメンバーによる 「日辺まちづくり委員会」 が発足しました。

きっかけ

平成25年に、中田地区からの呼び掛けで相互のまちづくりを考える会が結成されました。



まち歩き



日辺まちづくり
委員会の発足

日辺地区の住民は、まち歩きやアンケート調査をして、自分たちのまちをもっと住みやすくし、子どもたちに残すため、平成26年からまちづくりを考える委員会を発足し、まちづくりを検討しています。

日辺地区を知るために、自分たちのまちを歩いて、良い所、悪い所を知る調査を行いました。中田地区の人も参加し、気付いた事をアドバイスしてくれました。

- 良い所**
 - 地区内のコミュニケーションができています。
 - 農作物の加工場があり、地場野菜の活用の可能性と、職場として有効である。
- 悪い所**
 - 生活に必要な施設がない。(診療所、小売店、避難する高い建物など防災施設)
- 課題**
 - 農地が多く、開発が難しい。
 - 新住宅地と旧住宅地、農地との違いがある。

住民全体で
まちづくり

(西條 記)

平成27年度 若林区まちづくり協議会の行事予定

4・5月
役員会・総会

7月 若林区
合唱のつどい

8~11月
若林区スポ・レク
フェスタ

7~翌3月
「ラヂオ
はいらいん若林」
放送

10月 若林区民
ふるさとまつり

3月 「はいらいん若林」
vol.19発行

76.2MHz
ラジオ3にて毎週土曜日
午前10時から

※詳しくは「市政だより」「若林区ホームページ」等でご案内いたします。 ※実施内容・時期については変更となる場合があります。